

# ボールランナー



収穫目安 (定植後)  
 春まき：5 8～6 3日  
 夏まき：5 4～5 8日

## 特徴

- 定植後約 55 日で収穫するボールタイプ。青果用で約 1.2kg を目安とする。
- 球は豊円形で肥大性に優れ、締りが良い。
- 耐暑性にすぐれ、石灰欠乏などの生理障害の発生は少ない。
- 草姿は半開性の濃緑色で、萎黄病に抵抗性を持つ。
- 葉質はやや厚めだが柔らかく、歯切れのよい食感となる。

### 栽培適期表

地域	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
高冷地				●	×	—	■						
一般地			●	×	—	■		●	×	—	■		
暖地		●	×	—	■			●	×	—	■		

記号説明 ●:播種 ×:定植 —:栽培期間 ■:収穫期間

## 栽培方法

### 〈栽培管理〉

極早生品種のため、初期生育が重要となります。スムーズな活着となるよう、定植後には十分な灌水を行いましょ。定植後約 35 日目には結球体制に移行するため、それまでに十分な外葉形成を促してください。また、老化苗での定植は初期生育の遅れの原因となるため、注意が必要です。収穫の遅れ、収穫物の不揃い等の原因となります。高温期での石灰欠乏の発生は非常に少なく、また低温期での肥大性に優れます。そのため、北海道・長野県などの冷涼地では生育期間を通しての栽培が可能です。

### 〈収穫〉

結球体制移行は、球が徐々に大きくなる肥大を見せます。はじめに株の中心にこぶし大の球が形成され、そのまま大きく肥大していきます。そのため、収穫サイズに達すれば収穫適期となります。非常に肥大性の強い品種であり、特に高温期での収穫を行う場合、出荷サイズを超過して肥大する可能性もあります。また、在圃性に特に優れた品種ではないため、適期収穫に努めてください。

### 〈栽培方法〉

株間は 30~33cm、条間は 60cm の 1 条定植で、栽植本数は 5,000~5,500 株 /10a を推奨。肥培管理は一般的な早生種よりもやや少なめとし、総施肥量はチッソ換算で 12~14kg/10a とします。極早生種であり初期生育が重要なため、元肥主体の管理とします(約 7 割は元肥で施用)。追肥も早めに行い、収穫期には肥効が

落ち着くように努めてください。

### 〈ご注意〉

上記の数値は弊社圃場内での実例であり、各地域によって最適な条件へ変更していただくようお願いいたします。

### 〈ポイント〉

老化苗は定植適期を逃してしまった苗のことを表します。栄養状態も悪く、根鉢が強く回りすぎています。この苗では定植後の根の発生が悪く、活着・初期生育が遅れてしまいます。圃場の準備が間に合わない場合には、より大きなポットに移植し、生育が停止しないようにしましょう。



健全苗

定植適期苗。根も回り過ぎず、活着も早い。

老化苗

健全苗に比べ葉色が悪く、根が回り過ぎている。